

ナガエツルノゲイトウに関する Q&A

(未定稿)

令和4年1月

農林水産省

環境省

農業・食品産業技術総合研究機構

目 次

1. ナガエツルノゲイトウの生態等

- 問1 ナガエツルノゲイトウはどのような植物ですか。
- 問2 ナガエツルノゲイトウはどのようなところに生育しますか。
- 問3 生育のサイクルはどうなっていますか。
- 問4 どのようにして拡散しますか。
- 問5 ナガエツルノゲイトウの繁茂しやすい水温や水質などの条件はありますか。
- 問6 何 cm くらいの深さまで根を張りますか。
- 問7 ナガエツルノゲイトウは断片から再生するとのことですが、どの程度の大きさで再生しますか。
- 問8 現在の国内の分布状況を教えてください。
- 問9 分布の北限はどこですか。
- 問10 市町村単位での分布を把握していますか。

2. ナガエツルノゲイトウ侵入による影響や被害

- 問11 ナガエツルノゲイトウが繁茂することによりどういった影響や被害がありますか。

3. ナガエツルノゲイトウの駆除と処理方法

- 問12 ナガエツルノゲイトウの侵入・拡大防止に対する基本的な考え方を教えてください。
- 問13 生息、分布調査に適した時期はありますか。
- 問14 ナガエツルノゲイトウの生育が認められる地域で、水路を通じたの侵入をどのように防げばいいですか。
- 問15 取水口に設ける網の目は、どの程度の大きさとすればよいですか。
- 問16 有効な除草剤や施用方法を教えてください。

問 17 駆除した際の植物体が枯れたことを確認する方法・目安などはありませんか。

4. 駆除の手続

問 18 特定外来生物ナガエツルノゲイトウの運搬について、ボランティア等による小規模な駆除の場合、インターネットや掲示板等により事前に告知した上で、袋に密閉するなど断片等がこぼれ落ちないようにすれば、「生きたまま焼却施設等へ運ぶことが可能となる」とありますが、管轄の市町村への申請等は必要でしょうか。

問 19 地方公共団体等による計画的・定期的な駆除の場合の手続きを教えてください。

問 20 河川の敷地内で駆除活動を行う場合、どこに連絡し、許可を取ればよいですか。

1. ナガエツルノゲイトウの生態等

問1 ナガエツルノゲイトウはどのような植物ですか。

(答)

南米原産の多年草であり、川岸などの水辺や比較的浅い水底（みなぞこ）の土壤中に根を張り生育します。主に水面上に茎や葉を伸ばすので抽水植物に分類されています。

生態系や農業に悪影響を及ぼすおそれがあり、外来生物法により、取り扱いが規制され、防除の対象となる「特定外来生物」に指定されています。

問2 ナガエツルノゲイトウはどのようなところに生育しますか。

(答)

主に水路、河川、ため池などに生育しており、水面を覆うことがあります。断片がかんがいによって運ばれて、水田、畦畔などに侵入することもあります。特に日当たりの良い水辺では大群落となります。

極度に乾燥しなければ陸上でも生育可能で、排水機場の法面、畑などでも繁茂します。コンクリート法面の隙間に根を張ることもあります。

海岸の砂浜など塩分濃度が高い環境でも生育できます。

問3 生育のサイクルはどうなっていますか。

(答)

ナガエツルノゲイトウは条件が良ければ年間を通じて増殖する多年草です。

場所によって異なりますが、例えば関東地方では3月中旬から4月ごろにかけて地下茎や根から萌芽し、夏から秋にかけて生長します。その間、根元の方の茎は横に這いながら枝分かれし、節から根を縦横両方向に伸ばし生育域を拡大していきます。

開花期は、4月から10月頃ですが、1年中開花することもあります。国内では種子は形成されません。

水中や暖地の個体群は枯れずに越冬することがありますが、霜が降りる地域では、通常12月以降に地上部は枯死し、地下茎の状態です越冬します。

問4 どのようにして拡散しますか。

(答)

ナガエツルノゲイトウは再生力、拡散力、侵略性が大きいという特徴があります。

国内のナガエツルノゲイトウは花を着けますが種子は形成しません。しかしながら、容易に節から発根するので、一節でもあれば数cm程度の茎断片からも簡単に再生します。根の断片からも再生することがあります。

また、茎はちぎれやすく、水に浮くため、水の流れによって運ばれ拡散します。

さらに、乾燥にも強いため、水辺だけではなく陸上にも侵入し拡がっていきます。

問5 ナガエツルノゲイトウの繁茂しやすい水温や水質などの条件はありますか。

(答)

生育の最適温度は 30℃ くらい、萌芽開始温度は 5～10℃ とされていますが、冷帯でも分布できます。

繁茂しやすい水質の条件はありません。

なお、耐塩性があり、河口部の汽水域でも生育が可能です。

問6 何 cm くらいの深さまで根を張りますか。

(答)

直根は 50cm 以上の深さまで伸びることができ、条件次第では 1m 程度の深さに達することがあります。室内実験では半年足らずで縦横方向とも根が数十 cm 以上伸長した事例もあります。

問7 ナガエツルノゲイトウは断片から再生するとのことですが、どの程度の大きさに再生しますか。

(答)

一般的に茎の断片は節があれば大きさによらず再生します。一定の直径（約 5mm 以上）がある根の断片からも再生します。

問 8 現在の国内の分布状況を教えてください。

(答)

国立研究開発法人 国立環境研究所が作成した侵入生物データベースによると、令和 3 年現在の国内分布状況としては、茨城、埼玉、千葉、神奈川、静岡、三重、滋賀、奈良、京都、大阪、兵庫、島根、山口、香川、徳島、福岡、佐賀、長崎、熊本、鹿児島、沖縄の 21 府県で確認されています。

問 9 分布の北限はどこですか。

(答)

国立研究開発法人 国立環境研究所が作成した侵入生物データベースによると、茨城県、埼玉県が北限となっています。

ただし、ナガエツルノゲイトウは冷帯でも分布できるため、日本全国に広がる可能性があります。

問 10 市町村単位での分布を把握していますか。

(答)

市町村単位の分布は把握していません。

2. ナガエツルノゲイトウ侵入による影響や被害

問 11 ナガエツルノゲイトウが繁茂することによりどういった影響や被害がありますか。

(答)

ナガエツルノゲイトウの繁茂による影響や被害としては、

- ① 河川や水路周りで繁茂した植物体が通水を阻害
- ② 植物体が大雨の際の増水等の影響により切断・流下し、
 - ・河川や水路等の通水を阻害、または閉塞
 - ・用排水機場の取水・排水時の障害、除塵機やポンプ等への負荷や詰まりにより、処理労力やコストが増大
- ③ 農業水利施設を通じて断片が水田や畑に運ばれ、
 - ・水田や畑で繁茂し、作物と競合し収量に影響
 - ・農業機械の操作（収穫作業等）に影響
 - ・畦畔を占有し、田面に侵入
- ④ 在来植物との競合、在来植物の被度の低下
- ⑤ ため池などで繁茂し水面を覆うことにより、水中の溶存酸素が低下して水質が悪化、水生生物の生息環境に影響

などが挙げられます。

3. ナガエツルノゲイトウの駆除と処理方法

問 12 ナガエツルノゲイトウの侵入・拡大防止に対する基本的な考え方を教えてください。

(答)

ナガエツルノゲイトウによる被害を防止するためには、できるだけ早期に当該植物であることを特定（同定）し、生育域が拡大する前に除去することが重要です。

また、既にある程度広がってしまっている場合は、まずはこれ以上拡大や拡散させないことを当面の目標に、慎重に駆除を進めていく必要があります。

問 13 生息、分布調査に適した時期はありますか。

(答)

侵入初期、定着初期は植物体が小さく発見しにくいいため、ある程度植物が成長した夏から秋に調査すると見つけやすくなると考えられます。

問 14 ナガエツルノゲイトウの生育が認められる地域で、水路を通じての侵入をどのように防げばいいですか。

(答)

取水口への漁網などの設置や給水栓の口に収穫ネット袋をかぶせることで、植物体の茎断片の流入を阻止することができます。

漁網や収穫ネット袋の破れや目詰まりを防ぐために、定期的なチェックと、たまった断片やゴミの除去が必要です。

また、取水口の周囲は重点的にモニタリングし、ナガエツルノゲイトウの生育が認められれば早期に抜き取るなど予防的な対応が必要です。

問 15 取水口に設ける流入防止用の漁網などの網目は、どの程度の大きさとすればよいですか。

(答)

ナガエツルノゲイトウは数センチの茎断片からも容易に発根、再生することから、水田等の取水口には、刈り払いの作業等に伴う小さな断片を回収するため網目が4mm以下の収穫ネット袋や防風ネットなどを推奨しています。

用排水機場等の取水口には、細かい目の網を設置できないため、大きい目(数cm程度)の漁網などとオイルフェンスを組み合わせたたりして、断片の流入をなるべく防ぐようにします。

問 16 有効な除草剤や施用方法を教えてください。

(答)

現在、農業・食品産業技術総合研究機構を中心に、水田と畦畔に有効な除草剤の選定や効率的な処理方法等の新たな防除技術を開発中です。成果がまとまり次第、順次公開する予定となっています。

なお、農薬の使用に当たっては、ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認するとともに、法令に従って適正に使用してください。

問 17 駆除した際の植物体が枯れたことを確認する方法・目安などがありますか。

(答)

ナガエツルノゲイトウは再生力が非常に強いため、可能な場合は、室内の雨が降りかからない場所(ビニールシート上)に置き、薄く広げた状態で2～3か月以上よく乾かして、中までカサカサになっていることを目安にしてください。

雨などが降りかかる野外に積み上げる場合は、再び土に根を下ろして再生しないよう、植物体の土への接触を防ぐためのビニールシートなどを敷く必要があります。乾かしているうちに強風などによって飛散する可能性があるため、ビニールシートに乗せたナガエツルノゲイトウの上から、さらに防風ネット(網目4mm)などで覆ってください。

野外に積み上げる場合、完全に乾燥させることは難しく、枯死するまで時間がかかる(数ヶ月)可能性があります。

なお、特定外来生物であるナガエツルノゲイトウは生きた(枯れる前の)状態での保管や運搬が禁止されていますが、必要な手続きを行えば、枯れる前でも処分のために運搬することが可能となります。手続きについては、管轄する環境省の地方環境事務所、あるいは、自然環境事務所にお問い合わせください。

【地方環境事務所・自然環境事務所一覧の URL (環境省ホームページ)】

<http://www.env.go.jp/nature/intro/reo.html>

4. 駆除の手続き

問 18 特定外来生物ナガエツルノゲイトウの運搬について、ボランティア等による小規模な駆除の場合、インターネットや掲示板等により事前に告知した上で、袋に密閉するなど断片等がこぼれ落ちないようにすれば、「生きたまま焼却施設等へ運ぶことが可能となる」とありますが、管轄の市町村への申請等は必要でしょうか。

(答)

特定外来生物についての規制ということでは、これらの条件を満たせば市町村に申請する必要はありませんが、ごみ処理場の能力などの制限がある場合がありますので、市町村の環境課や廃棄物担当課などに事前に連絡いただくことが望まれます。

問 19 地方公共団体等による計画的・定期的な駆除の場合の手続きを教えてください。

(答)

外来生物法に基づく「防除の確認・認定」の手続きをとってください。詳細は管轄する環境省の地方環境事務所または自然環境事務所にお問い合わせください。

【地方環境事務所・自然環境事務所一覧の URL (環境省ホームページ)】

<http://www.env.go.jp/nature/intro/reo.html>

なお、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく廃棄物の処理に伴って保管・運搬する行為については、手続きは必要ありません。

問 20 河川の敷地内で駆除活動を行う場合、どこに連絡し、許可を取ればよいですか。

(答)

その河川を管理している機関（河川管理者）を確認し、例えば一級河川で国が管理している区間である場合は、国交省の出先機関である河川事務所、あるいは、出張所に連絡してください。

なお、工作物等の設置等における許可処分よりも簡便な手続きが可能な場合もありますので、ご相談ください。